

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2792600070		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム一番町		
所在地	大阪府 門真市一番町6番7号		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成28年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の命を守ること。健康管理の充足を図る介護支援を ・入居者が日々笑顔で楽しく過ごして頂ける介護支援を ・認知症高齢者の全てを尊敬の意を持って受け入れる介護支援を ・人と人とのコミュニケーションを大事にした介護支援を ・地域社会の一員として、その人らしい生活が送れるような介護支援を ・近隣の方々と交流を深め催し物や行事に参加させて頂けるような介護支援を ・入居者様ご自身が来訪者に笑顔で挨拶をされるような介護支援を ※ 私たち「FMCグループホーム一番町」は、このような介護支援をさせていただきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、心穏やかに生活していけるよう、「さりげなく優しく、さりげなく見守る」を目標として、職員一同は日々努力している。地域高齢者の穏やかな生活を実現するため、施設に「介護なんでも相談所」を開設し、相談に応じている他、地域の要望に応じて「認知症介護」のテーマで講演も行っている。また、利用者が笑顔で満ちるよう、ボランティアによる将棋・歌・踊りなどの楽しみや、家族・地域住民も招待したジャズコンサートを定期的に開催して喜ばれている。家族に対しては、「一番町生き生き通信」を毎月定期的に発行し、施設での行事等の様子を写真入りで紹介するほか、各利用者の日常生活の様子を知らせる通信文も掲載し、好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の介護施設であることを織り込んだ「FMCの心得・理念」を作成し、管理者を始め介護職員に周知徹底を図り実践しています。	新入職員研修では、運営指針及び運営方針についての感想文を提出させ、成果の徹底を図っている。日常的には10項目の介護支援の心得を毎朝唱和している。昨年度の外部評価で課題となった、利用者本位の視点を加味した文言につき、更に検討を深め、理念として完成させたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が地元地域の催し物に参加したり、ホームで催し物をする場合には地域の方々に案内状をだして参加して頂くようにしています。	地元自治会はあまり活発な活動をしていないが、老人会、民生委員などと連携し、できるだけ、交流に努めている。ボランティア訪問を多数受け入れ、恒例のクリスマスジャズコンサートや力士の来訪には地元の住民も多数参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長の石谷は認知症高齢者のグループホームの運営を約12年に亘りを行っているので当該ホームの玄関にも「介護なんでも相談所」の看板を掲げている。また地域の要望に応じて認知症介護の講演も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施しているが、そこに参加されるご家族からはそのような意見がでないので直接的なサービス向上策にはつながっていない。	昨年度は6回開催された。参加者は、家族、利用者、包括、民生委員、事業者等である。町会役員には毎回案内を出しているが欠席が続いている。知見者として他グループホームの管理者に出席を要請したが実現しなかった。会議内容は事業所の近況報告が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	我がホームがある当該地域では市町村との直接的な協力関係がうすいように思うが、報告事項や相談事項は積極的に行っています。もっと密な関係性を取りたいと思います。	市とは生活保護関連の連携があるが、その他のことはくすのき広域連合を通じて行う。事故の報告やその後の対応の相談などをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束のないホームであるが、玄関をでると自動車の走る道路であるので玄関の自動ドアについては電気錠で開け閉めをしています。が、平日は自動ドアをオープンにしたりしています。	昨年度、外部評価のアドバイスにより表玄関以外を自由に行き来できるようにした。転倒の危険防止のため、ベットの柵と車椅子のベルト使用例があった。家族の同意はとっているが、その他の詳細な記録がない。	すべての関係職員が身体拘束の内容とその弊害を認識する学習の機会を持ってほしい。ごく限られた場合の例外は認められているがその時の対応と記録についても再確認が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について虐待防止マニュアルを作成し、それについての研修をおこない、日頃から虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弊ホームには、後見人がついておられる入居者様が2名居られるのでその制度については認識しています。介護スタッフにもそのことについての研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する流れを判りやすく図式化した説明表をつくり、それに沿った入居手続きをして頂いています。また、契約内容については関係者の皆さまに納得して頂く説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのイベント情報などがあれば、それに参加するなど意見や要望を実現する努力をしています。	家族を対象に毎月「一番町生き生き通信」を発行し、その中に、各利用者の日常の様子を知らせる欄を設け、なんでも相談があれば連絡してほしい旨記載している。家族来所時に利用者間のトラブルのことなど相談があり、その都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を受け入れ、たこ焼きパーティ・焼き肉パーティや外食や買い物ツアーなど、入居者様の環境をよくする方策や意見などは、積極的に取り入れています。	毎月1回職員会議を開催し意見や提案を聞き、積極的に取り入れる姿勢がみられる。個人懇談は特に設けていないが、施設長は日常的に職員への声掛けを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望があれば、その希望を叶えて貰うように努めています。スキルアップの出来る研修には積極的に参加していただき、就業環境を向上させるように支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の案内を全従業員に知らせて希望者には会社の経費で研修を受けて貰える環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	門真市内の高齢者福祉施設部会に管理者と職員の2名が加入して勉強会にも参加しています。また、近隣のグループホームの施設長などとの交流も図っています。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や関係者(ケアマネジャーや介護関係者)にそのためのヒアリングをして、ご本人の安全と安心を確保する関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それが認知症高齢者を抱えるご家族であることを認識したうえで、不安なことや要望について、特に聞くことの重要性を認識したうえで、その関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に我々のグループホームにおいては必要なことであると認識しているので、そのよう対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持つておられる能力で出来ることにはご自分でして頂いたり、お手伝いを頂いたりしています。洗濯を手伝って頂いたり、炊事の後片付けをして頂いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の要望や希望が出た場合には、それを実現するようにご家族に連絡し、我々とご家族と共にご本人の要望を叶える支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方にもよりますが、それまで住んで居られた地域の方々が面会に来られ馴染みの関係を続けておられる方もあります。時々、ドライブでの出身地を尋ねたりもしています。	新規入所時には原則として家庭訪問をし、今までの生活の仕方や環境を知るようにして。施設長は外出の時はできるだけ利用者何人かを同乗させ、以前住んでいた場所周辺を通ったりして、馴染みの人や場所を思い出せるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	社交的な環境で生活をしてこられた方は、直ぐに友だちに(仲間)になられます。が、他人との協調性がなく、孤立されておられる方には、その方に合った支援をするように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的な状態が悪化したので、入院をされ、退所された利用者様の介護サマリーを病院に提出したり、ご家族に退所者の病状についてお話をして了解を得て頂く説明を丁寧に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの方々の意向に添うよう努力しています。買い物や外食などもお一人お一人の意向や希望に沿ったケアマネジメントを行っています。	コミュニケーション可能な方とは、毎日の会話の中から、その人の思いや意向を知る努力をし、その情報は申し送り時やノートで共有している。困難なケースでは家族から聴いたりして本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方が入居以前にお世話になっていた方(ご家族・その方のケアマネさん・入院時の関係者など)に情報をいただき、その方の暮らしをより良いモノにする努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の日常を認識し、その方の現状を把握(心身状態・血圧・体温・血中酸素濃度・排尿排便など)して、その方のことを深く知るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのような介護計画を立案し、介護スタッフ全員でモニタリングをしています。	毎月1回職員会議の後半にケースカンファレンスしている。介護計画書のサービス項目を日々の支援経過に記載し、毎日できたかどうかチェックして、それをもとに月1回モニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とモニタリングの結果を持って、月に1回実施するカンファレンス会議の中で利用者個々の状況の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームでは入居者さまの生活に必要なと思う歯医者さんや、整骨院の先生にも往診を依頼して入居者さまの生活に必要な多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種のボランティアさんとの交流を図ったり、門真で活躍されているJAZZ愛好家(演奏者)に来て頂いてJAZZコンサートを開催したりを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	弊ホームの主治医が日常の健康管理を行っていますが、入居以前に入院されておられた方には、その病院に受診をして頂いたり送迎までを行っています。	医療連携加算を算定している関係で、入所時に説明し、本人・家族納得の上でホームの協力医が主治医となっている。内科は月2回、歯科は口腔ケアを含めて希望者が月4回往診を受けている。受診報告書、往診報告書で、職員、家族が内容を共有できるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフで取り扱えない状況(巻き爪・強度な便秘・女性特有の病気など)は介護スタッフが看護師に依頼しその適切な対応をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の入院可能な病院に当ホームのパンフレットを持って案内し、双方で情報交換が出来るような関係を構築しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的な状況を見極めたうえで、看取り契約を締結したり、介護スタッフには今後必ず必要となる「痰吸引」の講習会に参加してもらったり、重度化や終末期に向けた環境整備を行っています。	重度化の指針は入居時に説明している。まだ看取り経験はないが、往診医がおり、管理者は看護師であり、職員への教育など、看取りを行う準備は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主な介護スタッフには、そのような教育が出来ますが、入社間もないパートの介護スタッフの教育は遅れているので、今後は定期的な訓練を行っていくように努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に消防訓練を実施し、その体制を構築していますが、地域との協力体制は未だ不足しているとおもいますが・・・、その旨を消防署に報告を済ませています。	防火設備機器は整備し、備蓄品類は準備している。年2回の訓練は夜間想定も含め実施している。しかし、地域では共同防災訓練もしていない状況にあり、地域との協力体制の構築は今後の課題である。	有事の際は、地域との協力が欠かせない。地域の困難な状況の中で努力されていることは理解できるが、さらに可能性を探り、協力体制が整うよう、期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの学歴・生活歴や、その方の家庭環境など、年齢を積み重ねられたスキルを考慮して、その方にあった言葉かけをしています。	研修の機会ごとに、職員を参加させ、内部伝達して、言葉使いや態度に思いやりや愛情を込めた介護の実現に努めている。不適切な事例があれば、その都度注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、スポーツ新聞を欲する男性入居者のためにスポーツ新聞を用意したり、英字新聞を要望される方のために英字新聞を購入したり、出来る限り、そのように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マクドナルドにハンバーガーを食べに行ったり、回転寿司に行ったり、入居者様の要望や希望にそった支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お誕生日会において、その方に合ったセーターやカーデガンなどをプレゼントをしたり、入居されている皆様がオシャレが出来るように支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力(包丁を上手に使われる方、洗い物ができる方、後片付けが上手な方、食器を拭く方、など)にそった支援をしています。	献立と食材は業者から提供を受け事業所の調理師が調理している。利用者も本人の能力に応じて手伝っている。職員も利用者に話かけながら一緒に食べている。月に1回くらいは独自の献立で買い物からみんなで調理し楽しんでいる。外食も折々に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や食事の量を個別にデータ管理をし、その方にそった支援をしています。特に水分については十分に確保して頂いてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的には介護スタッフが誘導し口腔ケアをしています。週に1回は歯科医と歯科衛生士が来所され専門的な口腔ケアをされています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を記録し、その方の排泄リズムや、排泄パターンに沿った排泄介護支援を行っています。	排泄を自立していない半数ほどの利用者を対象に、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導して自立を目指し支援をしている。誘導の声かけやトイレ使用に当たっては、プライバシーに配慮した方法を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳やバナナジュースなど飲料物を日常的に飲んで頂いたりして、なるべく薬にたよらない便秘対策を日々行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望で入浴されるか、されないかは、その方の意思ですが、時間帯は・・・(夜間や早朝は無理です)そこはその方だけの希望にそわないときもあります。入浴介助は決めた時間に支援を行っています。	週2回の入浴を標準としている。浴室は一般家庭用の浴槽に、密着したベンチを設置し、跨ぐのが困難な人も入りやすいようにしている。浴室、脱衣室の床材は滑りにくく乾きやすい素材を使うなど安全に気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースで睡眠をとっていただいています。皆様、就寝は早い時間にベッドインをされますが、時には夜間帯に徘徊される方も居られたりもします。が起床は本人任せです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の名前が入った薬箱があり、そこから朝・昼・夜のお薬をだして服薬して頂いています。スタッフ全員が服薬間違いがないように日々緊張感をもって確認しながら支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が得意な方には編み物セットを提供したり、カラオケが好きな方にはカラオケ大会をしたり、将棋の好きな方には将棋ボランティアの方に来て頂いたり、それぞれに合った支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーに行ったり、時には回転寿司にいたり、花博の咲くやこの花館や菖蒲園などに出かけたりの支援をしています。100円ショップに買い物に行くこともあります。	すぐ近くに桜のきれいな公園もあり、天気の良い日には毎日のように散歩に出かけている。施設長が用事で出かけるときには、何人かの利用者に乗せてドライブを楽しむ機会も多くある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、お一人に1万円程度をお預かりして(個々の金銭出納帳があります)外出時にそれで買い物をして頂く支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のお二人は携帯電話を持っておられます。また、ホームの電話で3日にあげずご家族に電話をされている方も居られます。今後、手紙のやり取りも支援していきたいと思えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室も共用空間も利用者さまにとって、不安のないように居室前には顔写真を貼ったり、トイレには大きく看板をつけたり、共用部分には利用者さま手作りの飾りつけをしたり工夫をしています。	オゾン発生装置を天井に設置し、殺菌と脱臭に効果を発揮している。どこも明るく清潔に保たれている。利用者の記憶を呼び戻す助けとして、行事の写真をたくさん貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	4人掛けのテーブルにお名前を書いた名札や写真を引き並べたり、花を飾ったりして工夫をしています。一人掛けのテーブルと椅子の方も居られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある女性の入居者さまは以前から使っていた鏡台を自室に置かれたり、ある方は絵画を飾られたり、愛用のタンスを持参されている方も居られます。	ベッド、ナースコール、冷暖房、火災通報装置、スプリンクラ、オゾン発生装置を装備している。個室にもその方の写った写真やなじみの人の写真をたくさん貼り、なじみの家具なども置き、心安らぐ場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	おひとりお一人が安全に生活できるような環境整備をしています。トイレには大きな「トイレ」の看板を付けたり、風呂場や廊下に手すりを付けたりしています。		